

肢体不自由児の支援 家庭と学校が連携を

福井で全国大会

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会と全国特別支援学校肢体不自由教育校長会の合同研究大会(福井新聞社後援)が21日、福井市のフェニックス・プラザで始まった。写真。約500人が子どもの生きる力を育むためのPTA活動の在り方を考えた。

県内では初開催。開会式で大会実行委員長の清水かわおり・福井特別支援学校PTA会長が「ともに学び語らうこと



が未来につながることを体感できる大会にしたい」とあいさつした。文部科学省の菅野和彦・特別支援教育調査官は基調講演で、特別支援学校小学部、中学部の新学習指導要領を説明。「学校と家庭や地域の連携による切れ目のない支援が子どもの可能性を伸ばす」と強調した。

PTAと学校、地域、福祉機関、医療機関の連携や子どもへの支援について六つの分科会で話し合った。

最終日の22日は、在宅医療を専門とするオレンジホームケアクリニック(福井市)の紅谷浩之代表の講演などがある。(小林真也)